

## 訪問看護リハビリステーション アオアクア 音声入力で時間短縮 残業を減らそう

### 取組の きっかけ

- ・ 訪問看護利用者の増加に伴い、看護師の月平均の残業時間が増加しており、多い時で看護師50時間、管理者60時間などの状況下であった
- ・ 記録には従来から電子カルテを導入していたが、一日の全訪問が終了後、事業所に戻ってから記録業務を行うことが常態化しており、記録業務が残業時間の増加に拍車をかけていた
- ・ スマートフォンで音声入力ができ、事業所で使用する電子カルテにも入力内容が反映できるシステムがあり、かつ使用料が無料であることから、記録作成の負荷を減らすことを目的に、導入を決定した

### 主な 取組内容

- ① 音声入力の導入にともなう各事業所・職員への周知
  - ・ 各事業所への周知：各事業所の管理者等の幹部による音声入力システムの試用期間を設け、音声入力の使い方を共有したのち、社内会議で全事業所に共有した
  - ・ 職員への周知：事業所ごとに、管理者が職員に音声入力の使い方をOJTで共有、また、全社でのグループワーク研修を実施し、音声入力の使い方の共有化を図った
  - ・ 新人職員についてはトレーナー（OJTで教育指導を行う上司）制を取っているため、トレーナーが音声入力の方法を部下に教える体制をとった
- ② 音声入力の活用
  - ・ 音声入力の手技等は、職員にもよるが、半年間の訓練期間を設けて習得可能となった。現場では以下の流れで音声入力を活用している

#### ①スマートフォンでの音声入力

- ・ ご利用者様（患者様）の自宅、移動中、事業所等で、スマートフォンを使用し、音声にてご利用者様（患者様）の情報を入力

※会社でプライバシーマークも取得している。ご利用者様（患者様）のプライバシーが保たれるよう、音声入力は周囲の環境に配慮して小声で行うなど、音声入力時は全職員注意している

<スマートフォンに向かって話しかけ、音声入力をしている様子>

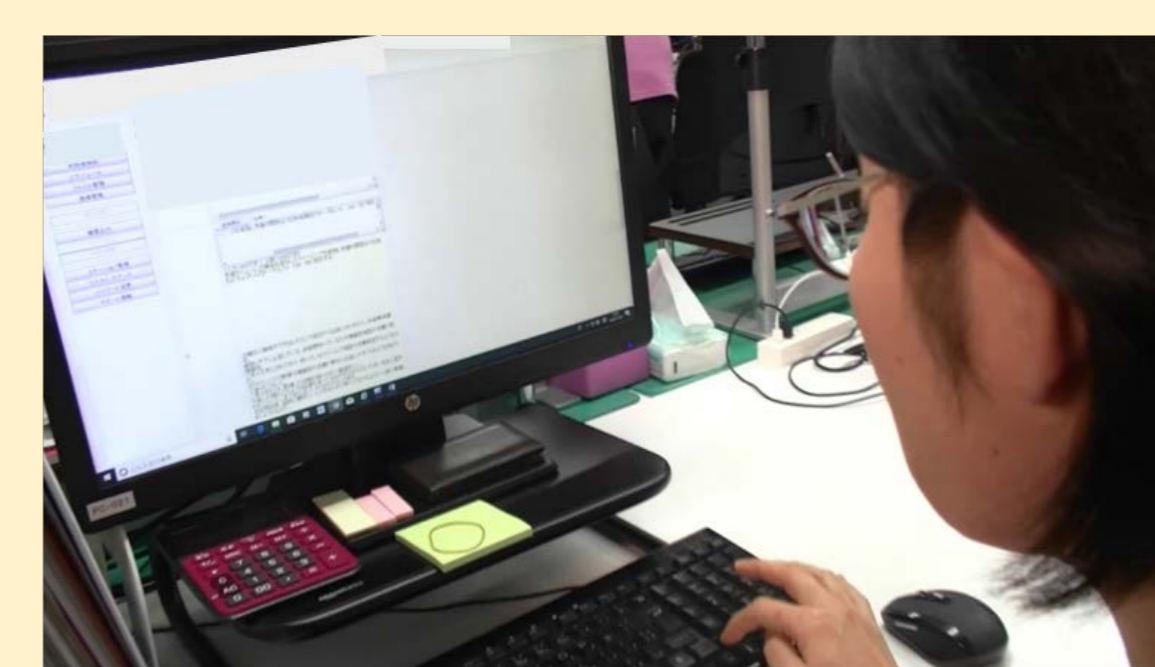


#### ②電子カルテ上での音声入力内容の一部修正

- ・ 事業所に帰社し、職員のPCで音声入力されたデータを確認し、音声入力できうまく入力できていない箇所を修正する

※修正する箇所：医療専門用語が平仮名で入力されることが多いため、漢字に変換するなどが必要である。しかし、帰社後すべての記録を記載していた以前と比べると、記録の漏れも少なく、効率よく記録できるようになっている

<事業所で記録を修正している様子>



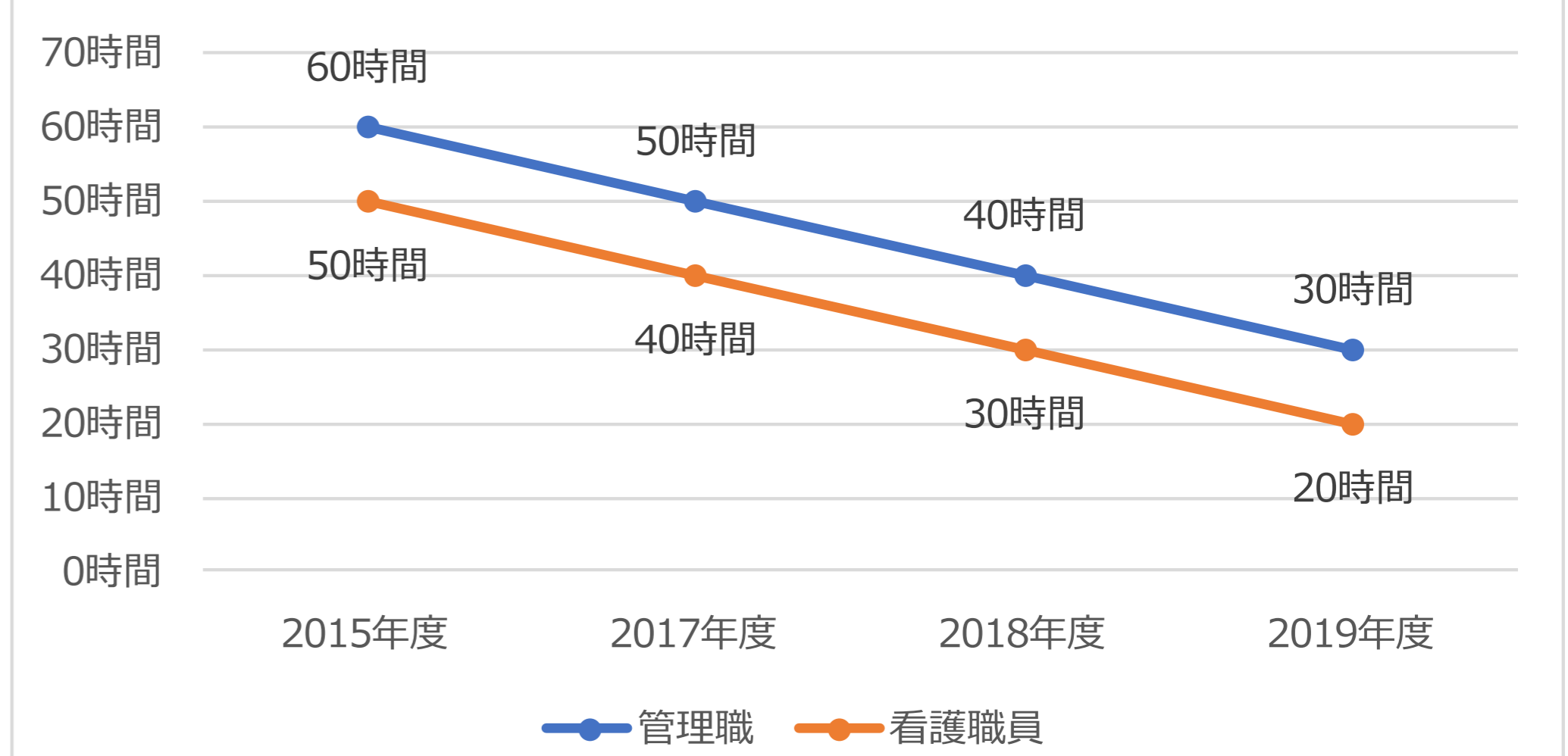
目視にて、音声入力された文章を確認し、修正していく

音声入力は、看護記録だけでなく、計画書、報告書、PCで文字入力を行うものであれば何にでも活用できる

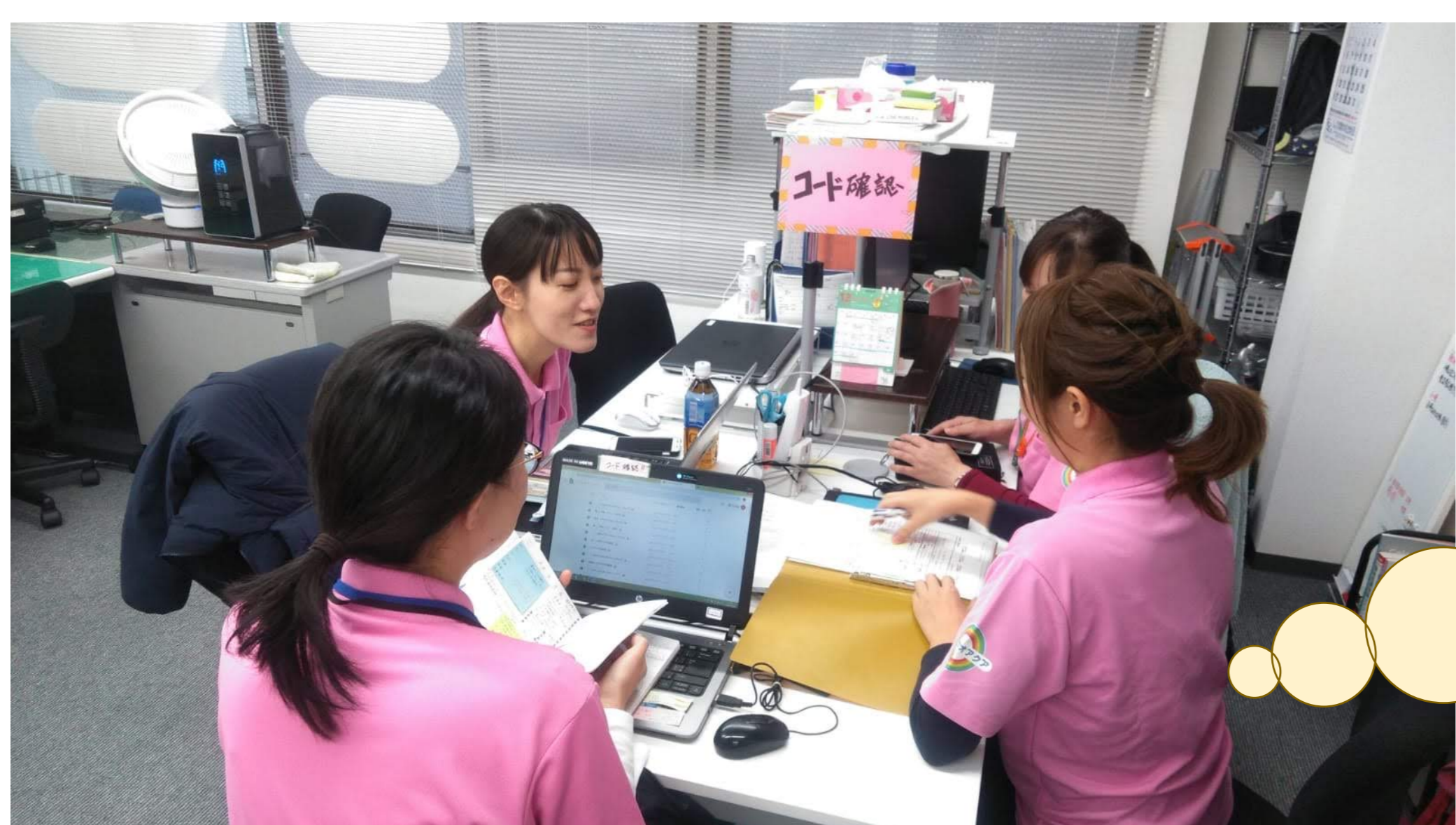
### 取組の 成果と効果

- ① 容易に記録ができるようになったこと等により、**看護職の月平均時間外残業が、月50時間から20時間に減少**した
- ② 管理者が看護職の残業を確認して通知する等の作業も減ることで、**管理者の残業時間も月平均60時間から30時間に減少**した
- ③ 事業所で記録に要する時間が減少することで、**ご利用者様（患者様）のケアに関して多職種で話し合いを行う時間が増え、より良いケアを追求できるようになった**

時間外残業時間（月平均）



※時間外残業については、音声入力の取組だけでなく、ほかにも、ノー残業デーの実施、残業時間の社内クラウド掲示を行い残業時間を全職員で確認し合うといった複数の取組の効果も影響している



看護師が話し合いをしている様子

- ・ 記録に時間がかからず、その分訪問時にご利用者様（患者様）と向き合う時間が増えた
- ・ 音声入力があることで、タイムリーにご利用者様（患者様）の気になる点を記録でき、その場でアセスメントもできるため、質の担保ができる



朝礼の様子